

尾張徳川の足跡を訪ねて 番外編 14～名古屋城一之表門の鯨～

現在、名古屋城西の丸御蔵城宝館では特別展「黄金をまとう鯨」を開催中です。



会場に入ると、大きな銅製の鯨が飾られています。

江戸時代に隅櫓に飾られていたのは瓦の鯨だったようです。明治43年に、現在の正門である榎多御門に宮城（旧江戸城）の蓮池御門を移築することになり、他の隅櫓や櫓門の鯨瓦も旧江戸城の銅鯨に置き換わりました。

この銅鯨はそのとき旧江戸城から運ばれてきたものです。つくりがしっかりしていたため、空襲のあとも原型をとどめています。

萬治3年（1660）に銅意法橋（渡辺正敏）とその子正次が制作したことが刻銘されています。およそ350年のときを越えて、江戸城にあった銅鯨と対面できるのは、何だかうれしいものです。